

核融合エネルギーフォーラム 第5回全体会合

2011年12月27日

学士会館

平成22年度  
「吉川允二核融合エネルギー奨励賞」  
の選考について

核融合エネルギーフォーラム

調整委員会 選考委員会 委員長

堀池 寛

# 平成22年度「吉川允二核融合エネルギー奨励賞」

## 目的

ITERやBAなどに代表される未来の核融合エネルギーの実現に寄与しえる内外の研究開発活動の中で、若手人材による優れた成果を顕彰し、今後の発展のために研究助成（\*）

## 対象

ITERやBAに直接関わる研究開発活動など

上記以外で核融合エネルギーの実現に必要な研究開発活動、または将来これらの研究開発に寄与すると見込まれる内外の基礎的・基盤的な研究開発活動など

長期的な視野に立って核融合エネルギーの実用化に向けたシナリオ作成に寄与する調査研究活動など

## 選考委員会

堀池寛（委員長、大阪大学）

上田良夫（大阪大学）、鎌田裕（原子力機構）、小西哲之（京都大学）  
鈴木哲（原子力機構）、西村新（核融合科学研究所）、南貴司（京都大学）

## 採択（調整委員会）

応募6件の中から、3件の受賞を採択

# 平成22年度 「吉川允二 核融合エネルギー奨励賞」受賞者

## 優秀賞（研究助成 80万円）

のがみ しゅうへい

**野上 修平 氏**（東北大学）

「核融合炉プランケット構造材料の照射下余寿命予測技術の開発」

構造材の余寿命を非破壊検査によって予測する研究で、遠隔操作によるレプリカ採取と検査で余寿命評価を目指すという目標設定に説得力がある。照射による微小亀裂発生挙動と微小疲労試験技術などの研究も並行して、多面的に進めており、今後の成果が大いに期待できる。

## 奨励賞（研究助成 40万円）

かじた しん

**梶田 信 氏**（名古屋大学）

「ヘリウム照射タンクステン上でのアーキング発生条件・発生機構の解明」

ダイバータ表面候補材であるWに、Heが入射した際に生じるナノ構造組織に起因するアーキングとその発生条件を明らかにする基礎研究で、問題設定が明確で学術的意義が認められる。研究の視点と、レーザーと電子ビーム照射などの実験手法に独創性が認められ、今後は損耗評価にも展開されることを期待する。



とばり ひろゆき

**戸張 博之 氏**（原子力機構）

「ITER中性粒子ビーム入射装置(NBI)に向けたIMV高電圧ブレッシングの真空絶縁体系の確立」

ITERの1000kVの加速電圧の維持手法の実験研究であり、高電圧が維持可能な絶縁材の開発と真空放電機構の解明という、非常に困難な課題に取り組んでおり、ITER-NBIの開発に向けて、意義が高い研究開発である。今後は真空放電現象の解明の方向性と体系化を目標に研究を進められることを期待する。